



赤倉を中心とした 民間信仰に関する調査

「スピリチュアル」な観光資源の活用を目指して

弘前大学教育学部
講師 安達知郎

1

カミサマ信仰、赤倉について

- シャーマン
 - “エクスタシー（脱魂、忘我）技術を身につけた特殊な呪術宗教者”（堀，1971，p.30）
- カミサマ、ゴミソ、オガミヤ
 - “主に晴眼で憑霊状態に陥らず、神や死者の霊と対話したり意向を感じ取ったりする「靈感型」の巫者”（大橋・杉山・安保，1993，pp.4-5）

● カミサマとイタコの違い

(桜井, 1970)

項目	イタコ	ゴミソ	備考	
性別 明業の別 同業の組合 教団の組織 道場 祭具 巫具	女性のみ 盲 あ あ あ あ	男女とも 目明きのみ ない あ あ あ ない	男性イタコの例が若干みられるが、それは近來の傾向。 半盲のイタコも少なくない。 ゴミソは本郡本山との関係を有する。 ただし、巫堂と神仏をまつるゴミソの祭堂とは若干趣きを異にする。 イタコはオシラサマ、ゴミソはボンデン。	
入巫過程について	修行年神ツキ(possession)エクスタシー	業行齢初潮 あ あ あ あ	あ あ あ あ	両者の方法に際立った違いがある。 ゴミソの神がかりは存在する。
祭儀について	神下ろし遊ばせ寄せ占禱具直	あ あ あ あ あ あ あ あ	あ あ あ あ あ あ あ あ	この区別はとくに重要である。 仏神ともにゴミソはナオライをする。
総開イタコマチ	張業祝 あ あ あ	り祝 あ あ あ	ない ない ない	ゴミソの信徒区域はダブルが、イタコの間では重なることが少ない。 イタコが一人立ちしたときの披露は盛大に行なわれた。 ゴミソは神社仏寺の祭日や縁日に多く参集する。たとえば高山稲荷など。

第1表 イタコ・ゴミソ比較表

- 日本におけるシャーマン

- 沖縄県 ユタ

- 青森県 カミサマ、イタコ

- 岩手県（オガミサマ、オカミサン）、秋田県（イタコ、エチコ）、宮城県（オガミヤ）、山形県（ワカ、ミコ）、福島県（ワカ、オガミヤ）

● 赤倉

- カミサマの多くは弘前市にいる（江田，1970）
- 赤倉は入内（青森市）、高山稻荷（車力村）などと並ぶカミサマの「聖地」（池上，1987）

- 赤倉の歴史①（宮田，1970）

- 中世以前 鬼伝説、岩木山信仰の場
- 中世 修験道（岩木山修験）の存在
- 1091 岩木山神社（百沢）
- 1600頃 岩木山神社と津軽藩の協力体制
- 近世 修験道（津軽修験）による祈禱

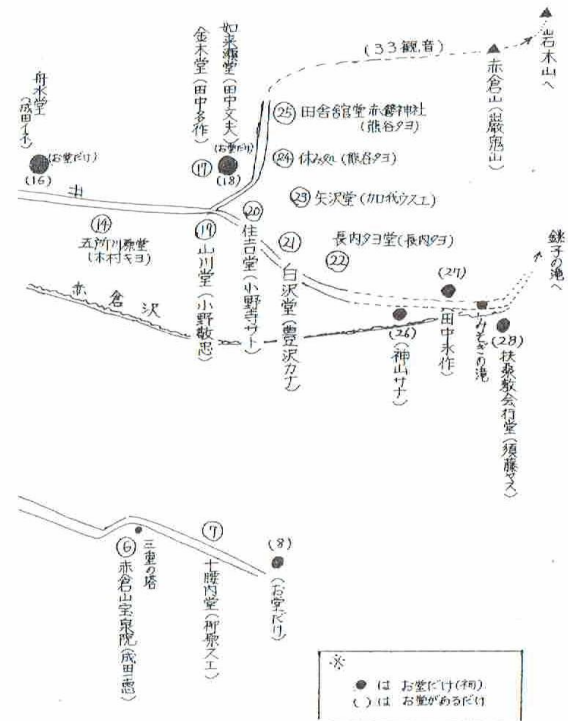
権力から切り離された場所としての赤倉

● 赤倉の歴史②（池上，1999）

その後も赤倉は一般人が容易に立ち入れない場所だった

- 1882 種市の太田永助入山
- 大正末期 須藤勇治による行小屋建設
- 1923 工藤むらによる行小屋建設
- 昭和30・40年代 多くの行小屋が建設（この頃、金剛寺、宝泉院が進出）

● かつての赤倉（太田，1994）



- 現在の赤倉①



- 現在の赤倉②



- 現在の赤倉③



- 現在の赤倉④



- 現在の赤倉⑤



2

先行研究

● 池上の1984年の調査（池上，1987）

（弘前、男性58名，女性80名）

○ ①カミサマ認知度

- 男性 88.7%
- 女性 81.1%

○ ②カミサマ信頼度

- 男性 はい26.4%、いいえ24.5%
- 女性 はい32.9%、いいえ21.9%

○ ③カミサマ来訪経験

- 男性 19.2%
- 女性 44.6%

- 池上の1985年の調査（池上，1987）

（木造、女性132名）

- ①カミサマ来訪経験（括弧内は3回以上）

- 20代 22.7%（13.6%）
- 30代 38.1%（14.3%）
- 40代 62.5%（12.5%）
- 50代 47.6%（19.0%）
- 60代以上 44.1%（26.5%）

3

調査内容

- **調査概要**

【対象者】 裾野地区在住の成人1087人
(男性524人, 女性563人)

【時期】 2013年12月末～2014年1月

【方法】 留置法

【回収数】 625人 (回収率 : 57.5%)
(男性287名、女性324名、不明14名)

图1 回答者性别 (625人)

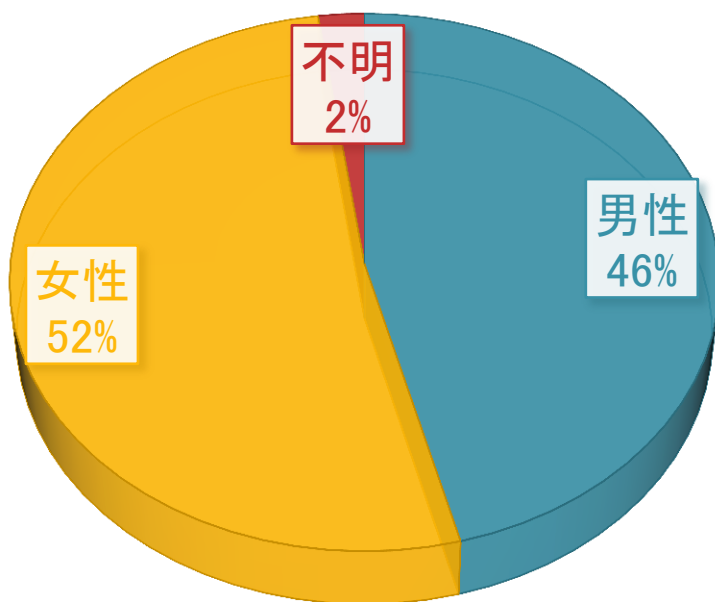


图2 回答者年代 (625人)

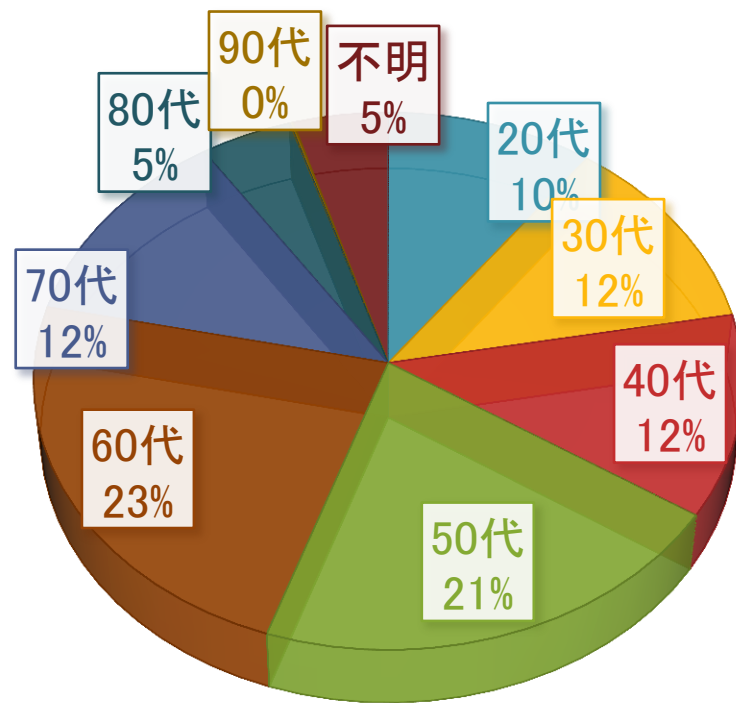
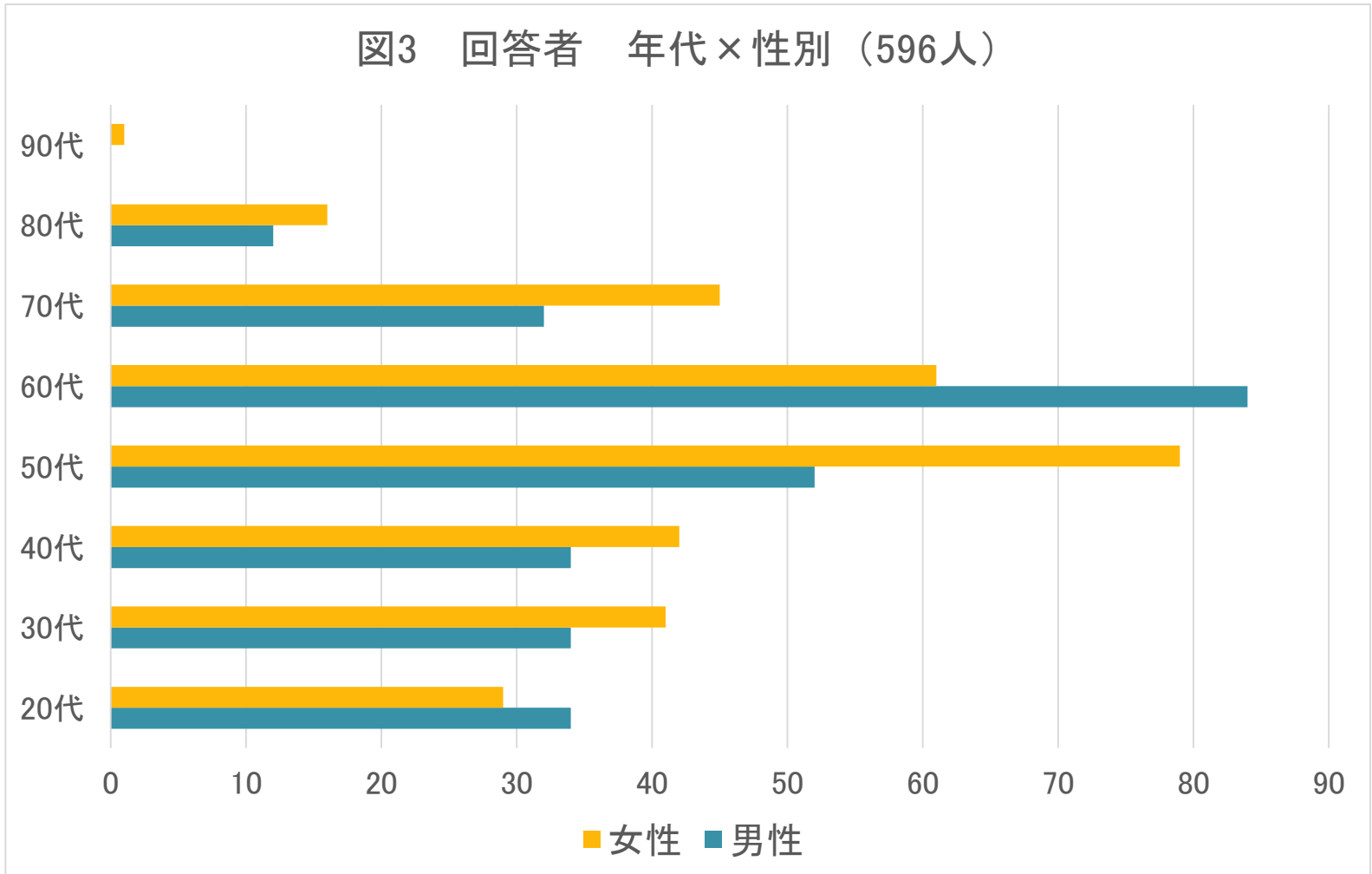
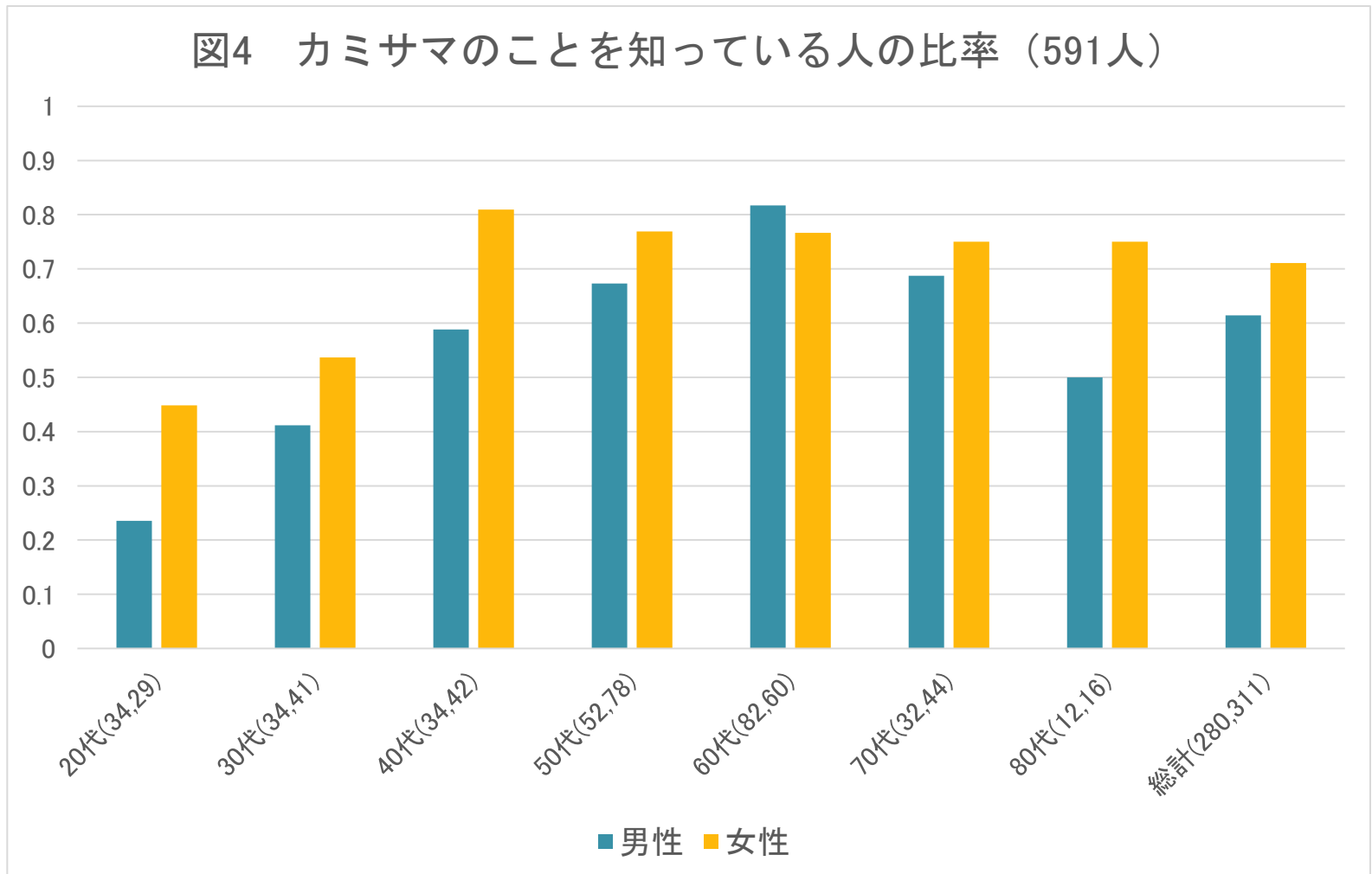


図3 回答者 年代×性別（596人）



カミサマ認知度

図4 カミサマのことを知っている人の比率（591人）



- ①約6割強の人がカミサマを知っている。
- ②60代がピーク
- ③女性の方がカミサマを知っている。
特に40代以上は7割強が知っている。

カミサマ来訪経験

図5 カミサマのところに行ったことがある人の比率
(582人)

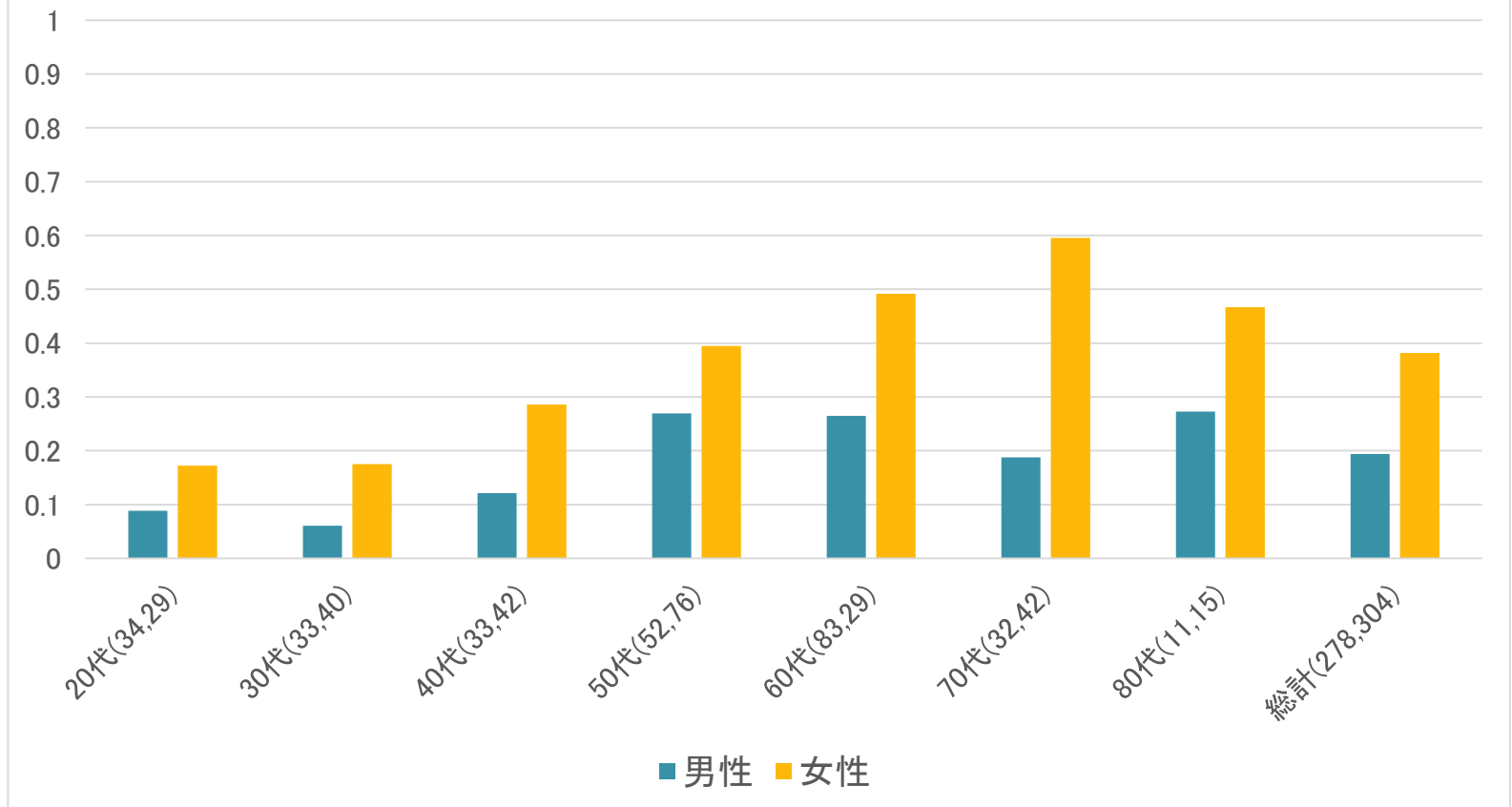


図6 カミサマのところに3回以上行ったことがある人の
比率 (582人)

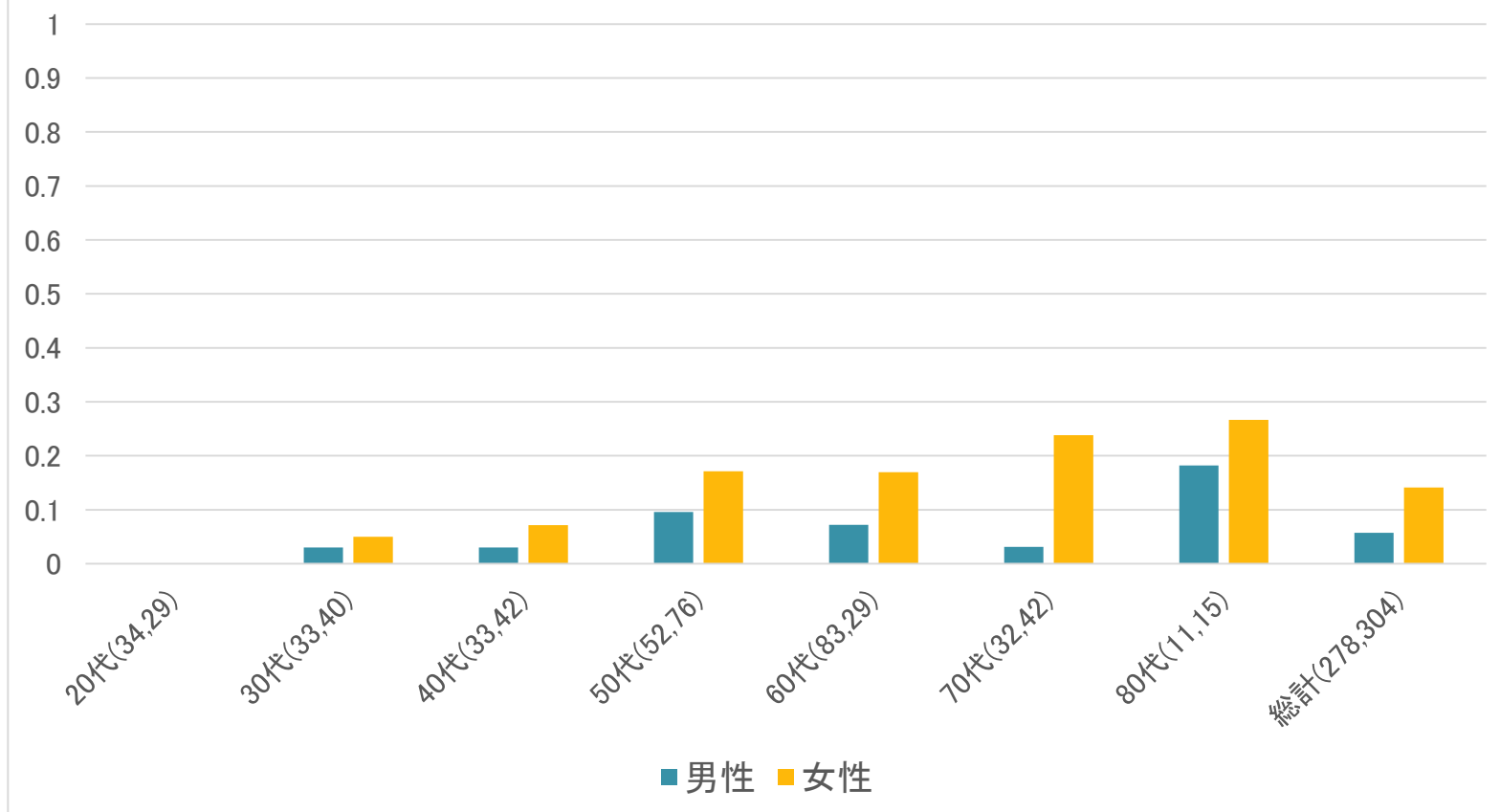
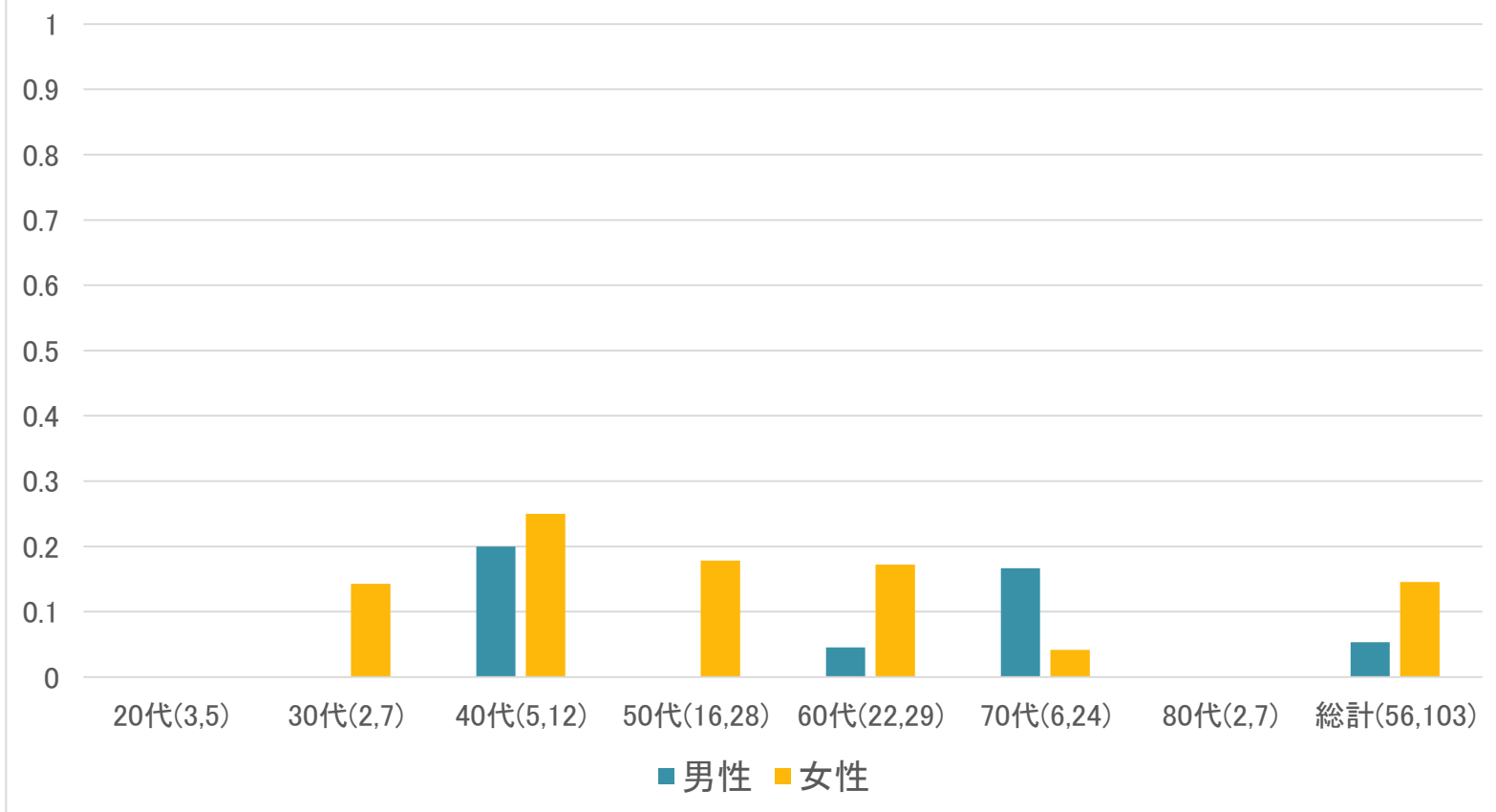


図7 カミサマのところに1年以内に行ったことがある人の比率（159人）



- ① 3割弱の人がカミサマのところに行ったことがある。（知っている人の約半分）
- ②カミサマのところに行くのは主に中年女性。
- ③男性が全く行かない訳ではない。男性もカミサマのところに行く。
- ④ここ1年でカミサマのところに行った人は約1割と少ない。

図8 【男性】カミサマに初めて行った年齢（55人）

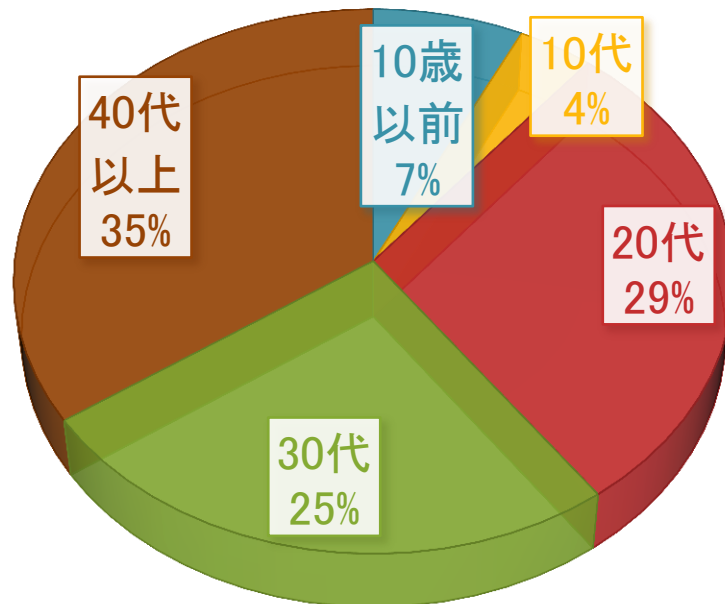


図9 【女性】カミサマに初めて行った年齢（117人）

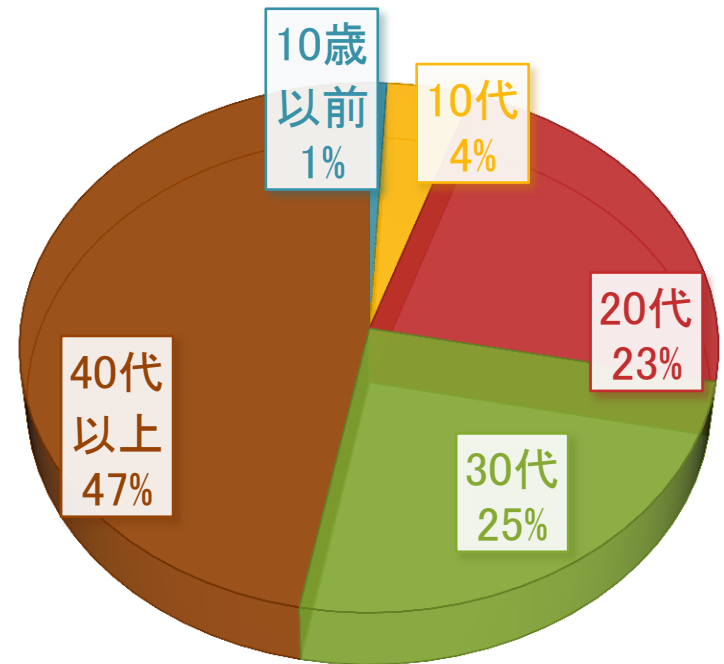


図10 【男性】カミサマ相談内容（37人、43回答）

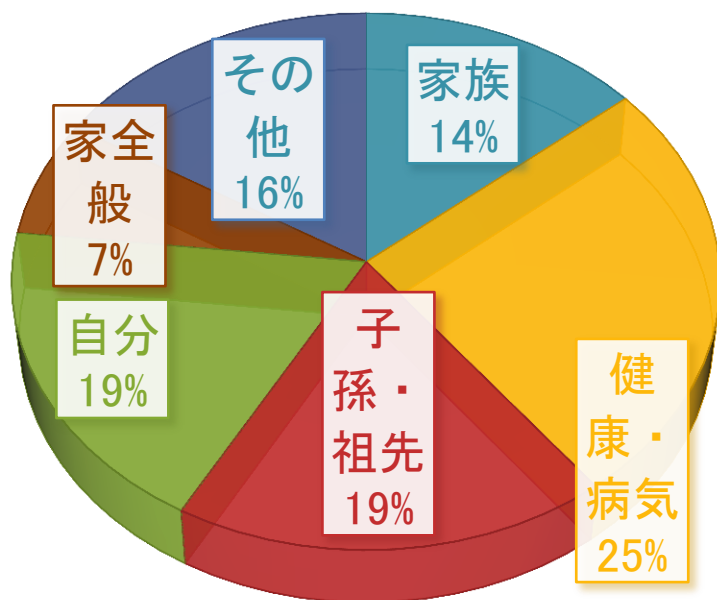
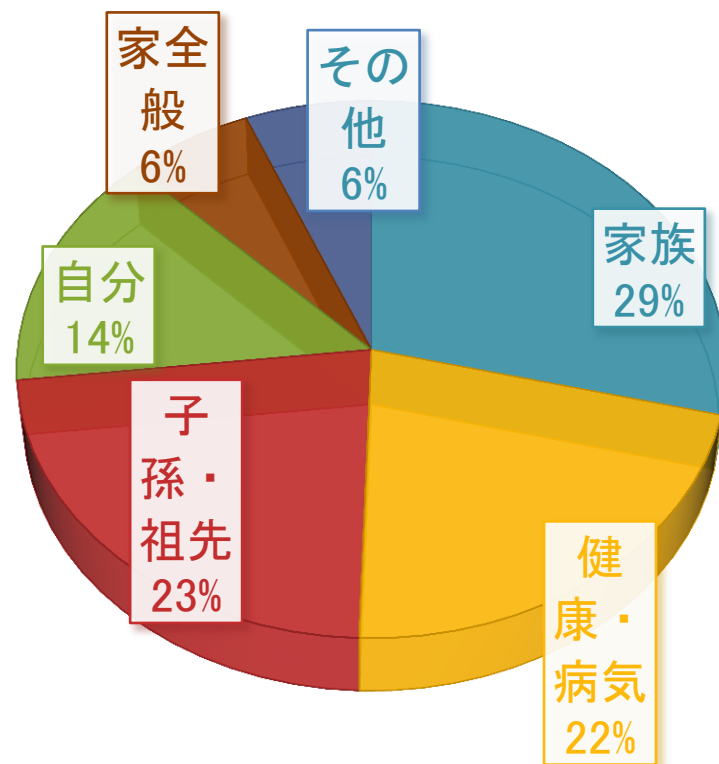


図11 【女性】カミサマ相談内容（85人、97回答）



- ①女性は40代以上になってからカミサマのところに行く。
- ②女性には家族や子孫・祖先のことなどをカミサマに相談する。
- ③男性は30代までにカミサマのところに行く。
- ④男性は健康・病気や自分のことを相談する。

カミサマに対するイメージ

図12 【男性】カミサマイ
メージ比率（125人）

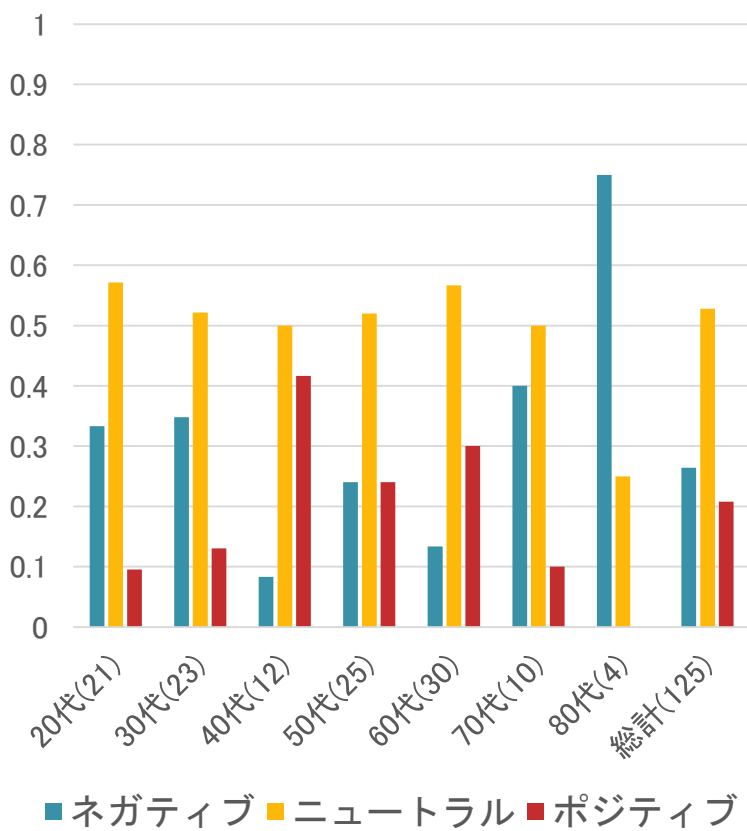


図13 【女性】カミサマイ
メージ比率（140人）

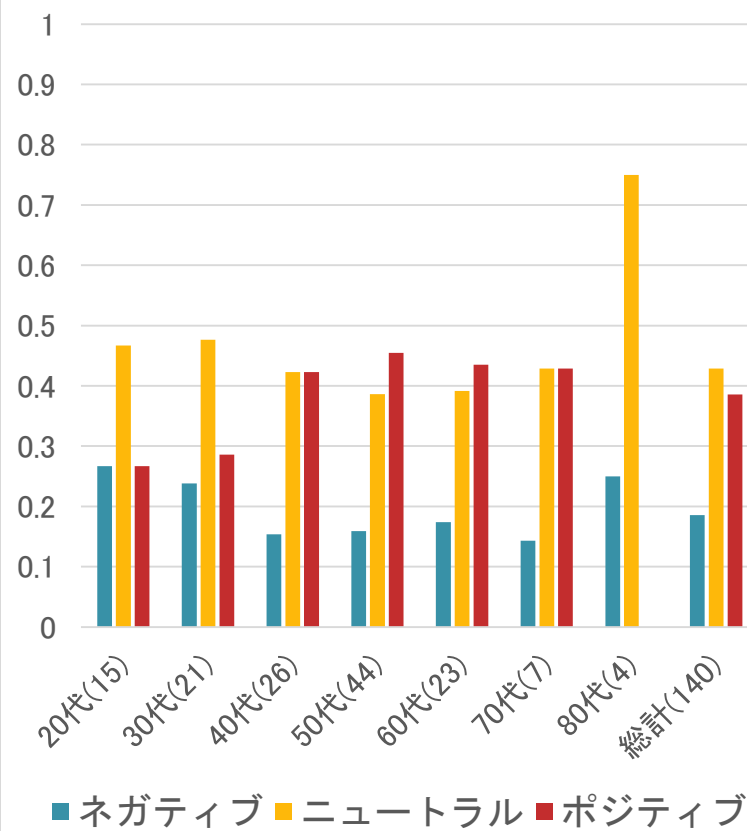
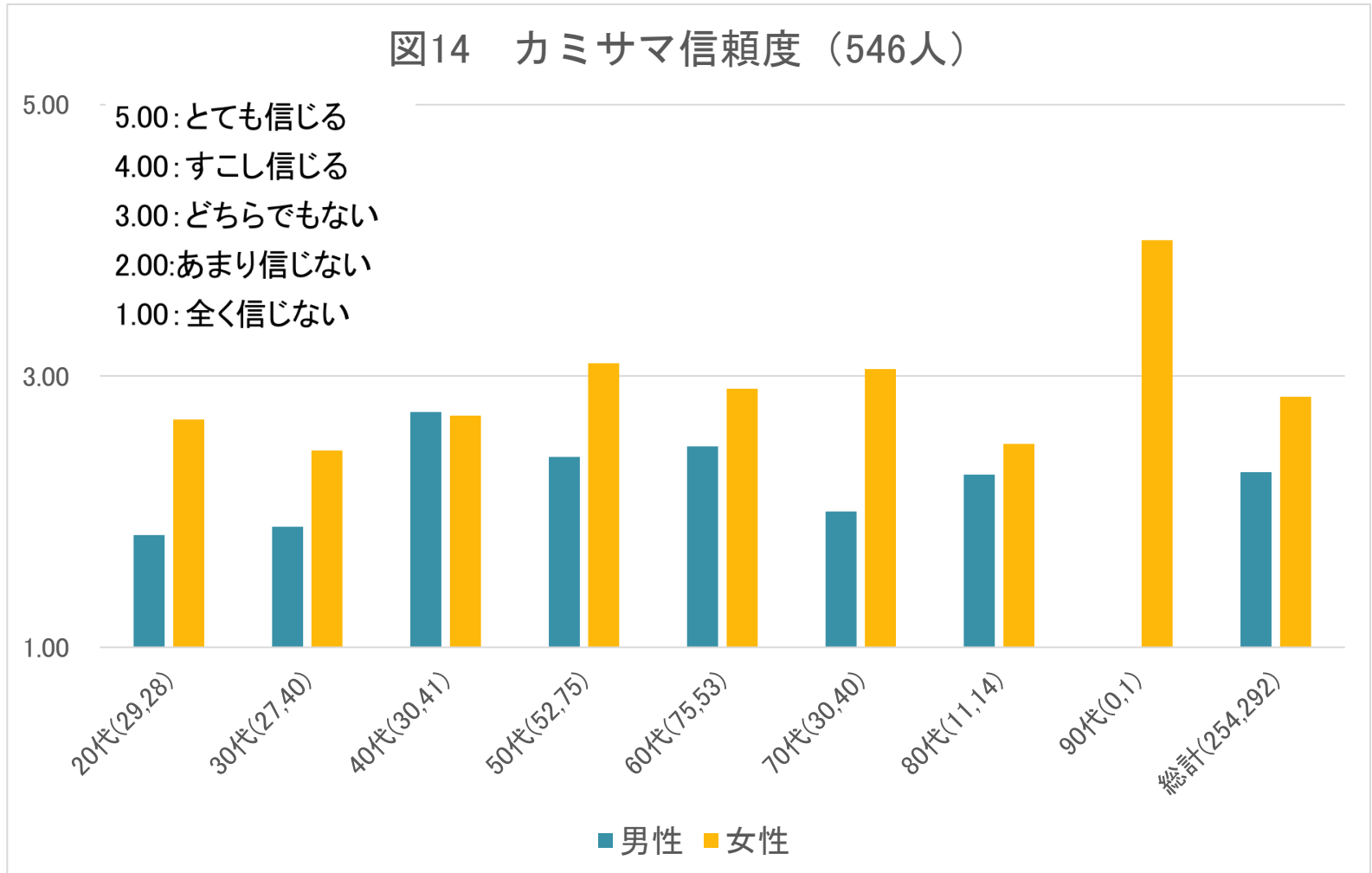


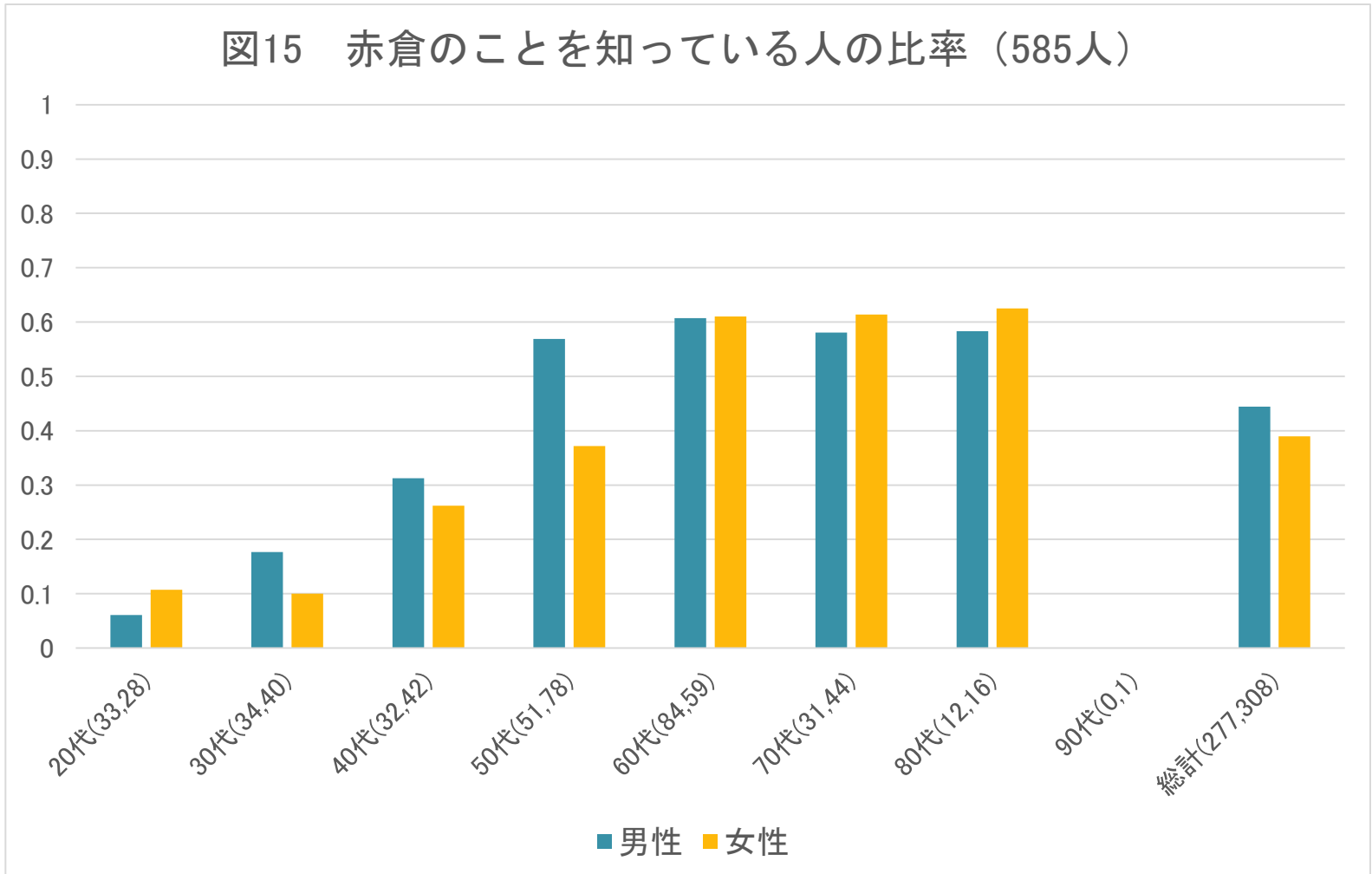
図14 カミサマ信頼度 (546人)



- ①30代以下に比べ、40代、50代、60代の方がカミサマにポジティブイメージをもっている。
- ②男性に比べ、女性の方がカミサマにポジティブなイメージをもっている。

赤倉認知度

図15 赤倉のことを知っている人の比率（585人）



- ①約4割強の人が赤倉を霊場、修行場として認知している。
- ②男性の方が認知している。特に50代以上は約6割が認知している。

赤倉来訪経験

図18 赤倉に行ったことがある人の比率（552人）

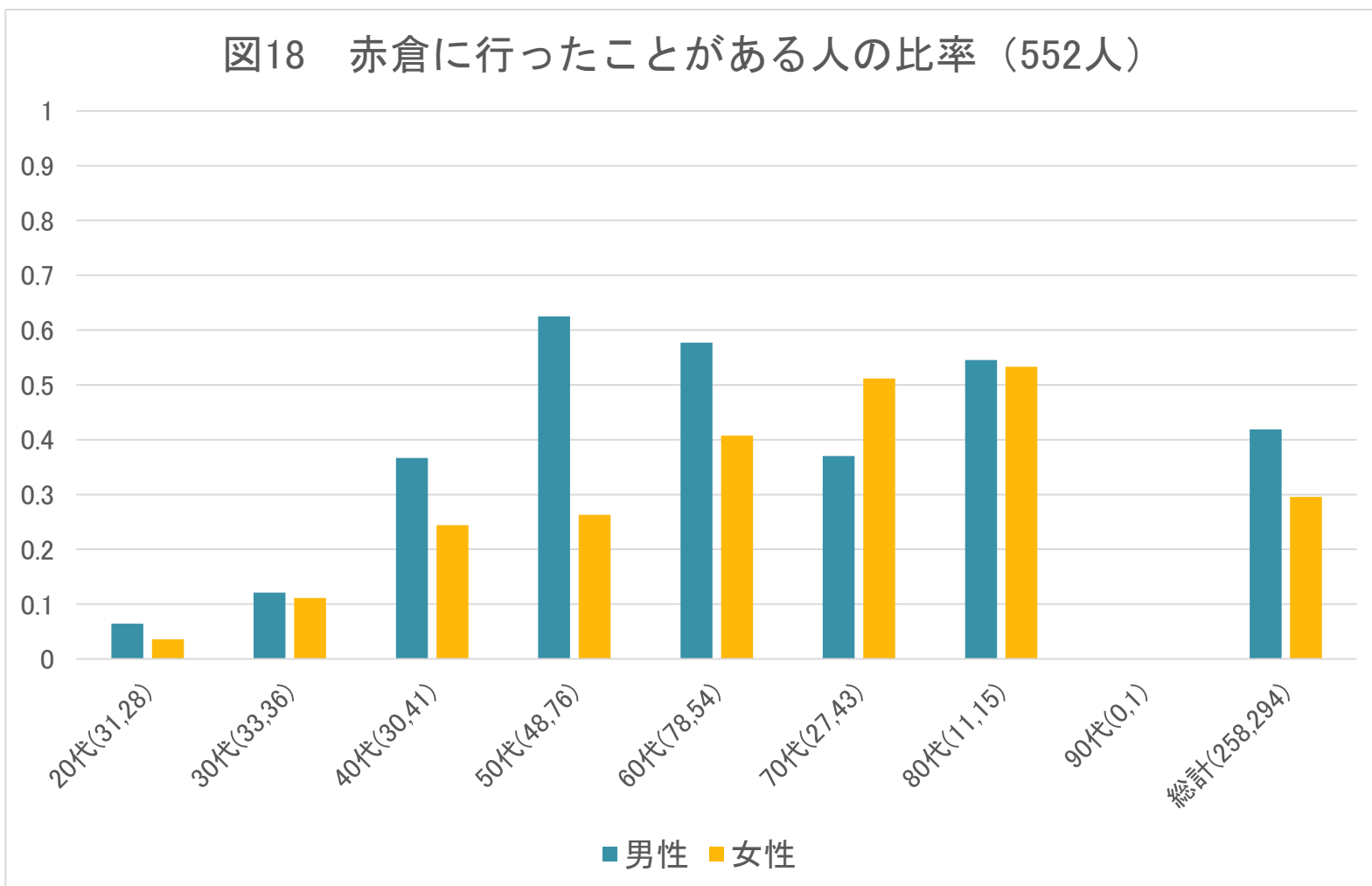


図19 赤倉に1年以内に行ったことがある人の比率
(186人)

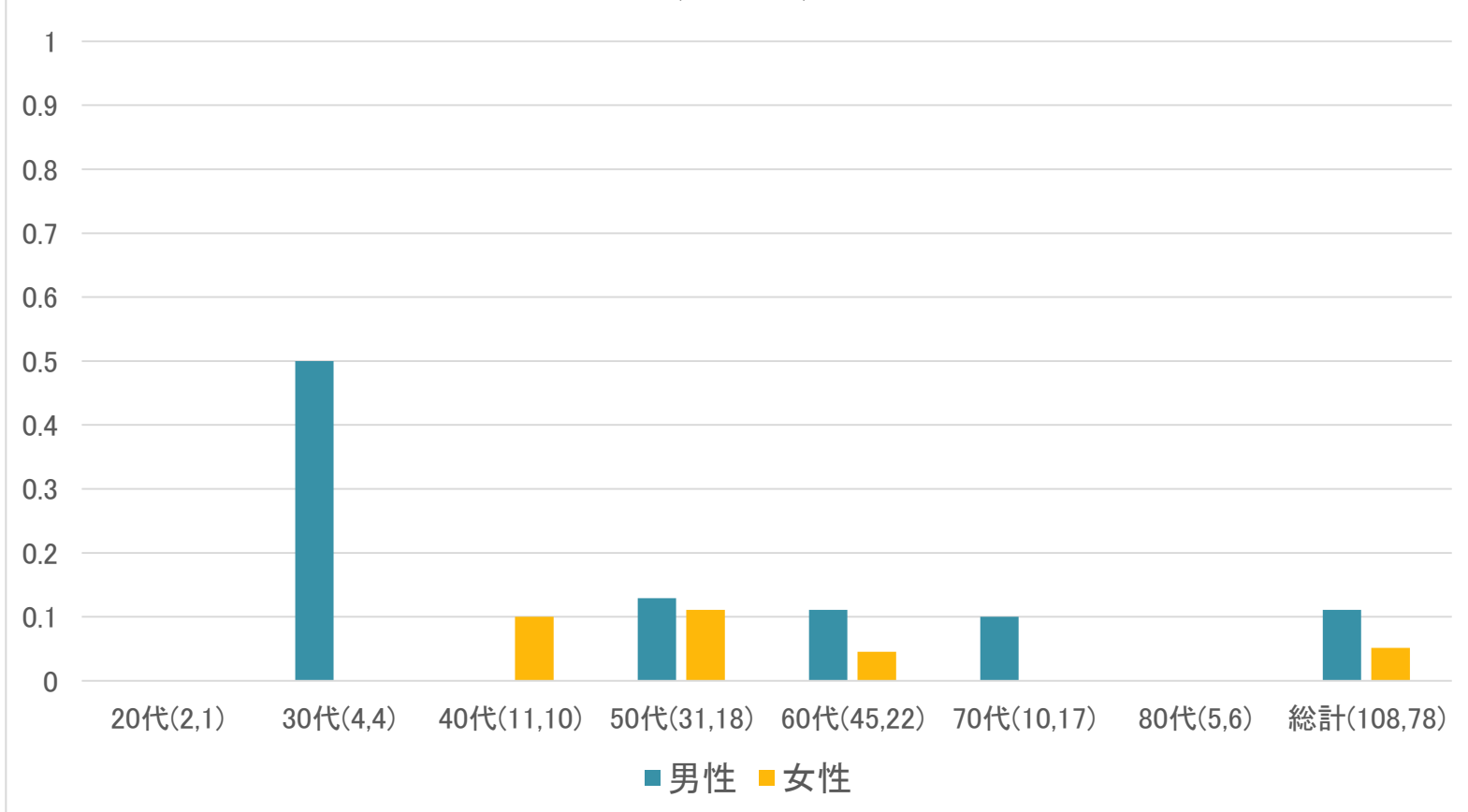


図20 【男性】
赤倉来訪理由（83人、91回答）

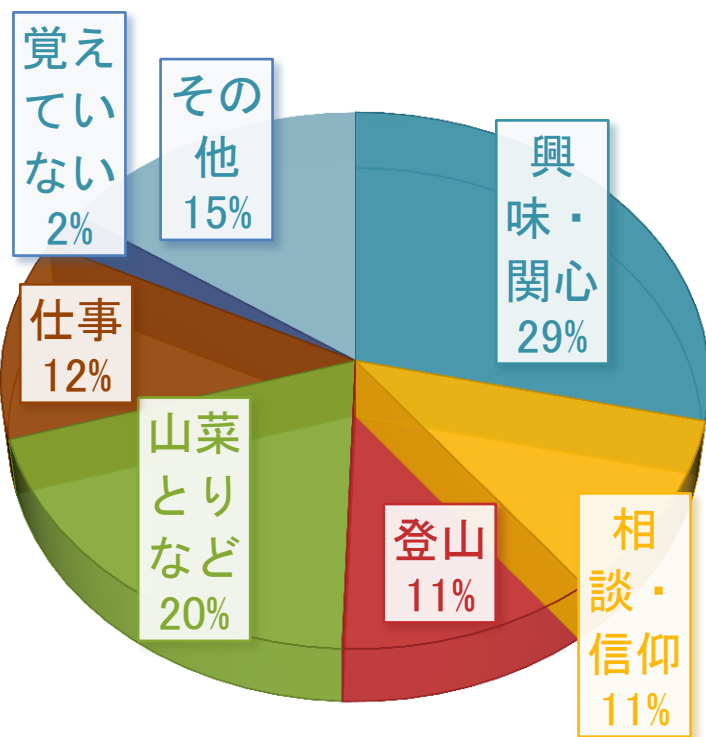
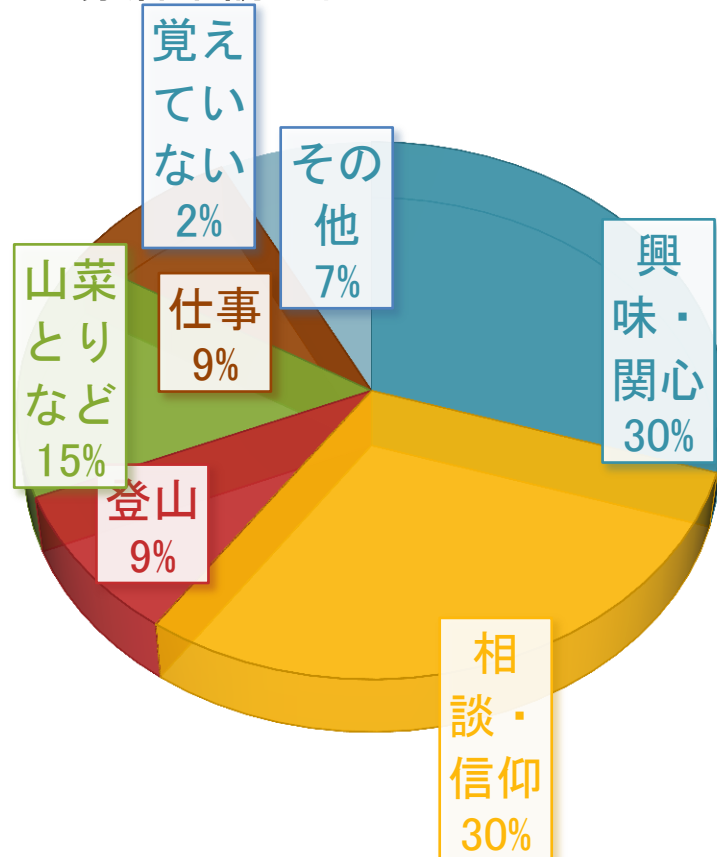


図21 【女性】
赤倉来訪理由（64人、67回答）



- ① 3割強の人が赤倉に行ったことがある。
- ② 赤倉に行くのは主に中年男性。
- ③ 男性はとくに相談・信仰を目的にしているわけではない。
- ④ 約3割の女性は相談・信仰を目的にしている。

赤倉イメージ

図16 【男性】
赤倉イメージ (83人、93回答)

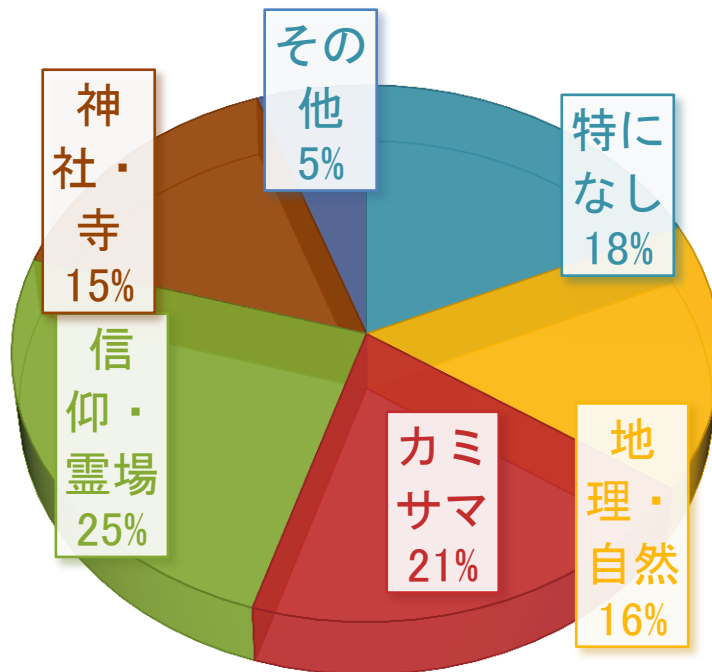
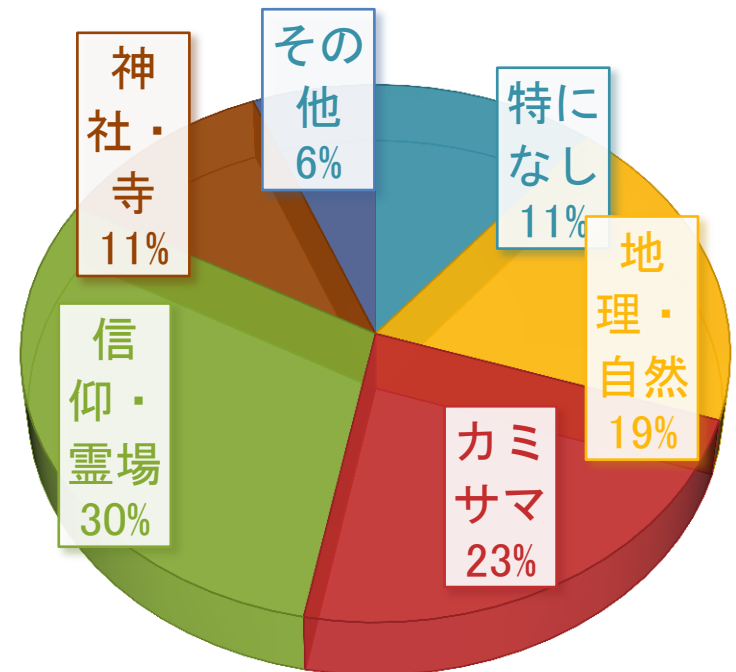


図17 【女性】
赤倉イメージ (73人、83回答)



- 約5割の人が、「カミサマ」「信仰・霊場」というイメージを赤倉に対してもっている。

まとめ

- ①カミサマ信仰は中年女性を中心として、現在も続いている。
- ②弘前市の調査結果と比べる限り、カミサマ信仰は1984年と比べてもそれほど衰えたとは言えない。
- ③木造町の調査結果と比べると、カミサマ信仰は1985年と比べて衰えたと言える。とくに若者においてその傾向が強い。

- ④4割から5割の人が、赤倉を「カミサマ」「信仰・霊場」といったイメージでとらえている。
- ⑤相談・信仰を目的として赤倉を訪れた人はそれほど多くないが、存在する。

赤倉は「相談に行く場所」としてではなく、「信仰の場・霊場・修行場」としてとらえられている。



4

考察

- 観光資源としての赤倉の可能性
- ①修行体験
 - 羽黒修験道
 - 山伏修行体験塾
(<http://hagurokanko.jp/shiru/yamabushisyugyou/taiikenjuku.html>)

赤倉金剛寺の火性三昧

(<http://kongoji.net/>)

- 観光資源としての赤倉の可能性

- ②津軽文化の象徴

- 沖縄

- 文化表象としての沖縄シャーマニズム（塩月，2012）

- 遠野

- 昔話、民話

岩木山信仰（お山参詣）

（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/matsuri/oyama.html>）

- ①修行体験のむずかしさ
 - 赤倉全体が共通の理念、方法を持っているわけではない
 - 赤倉を実際に信仰の対象としている人は少数であり、その文化が破壊される危険性がある
- ②精神性確立のむずかしさ
 - カミサマ、赤倉理解が地元においても、十分に浸透していない

- 今後に向けての課題
- ①カミサマ信仰、赤倉信仰の詳細（内容、歴史など）のさらなる研究
- ②他のシャーマニズム文化（沖縄シャーマニズム、羽黒修験道など）との比較研究

ご清聴、ありがとうございました。

